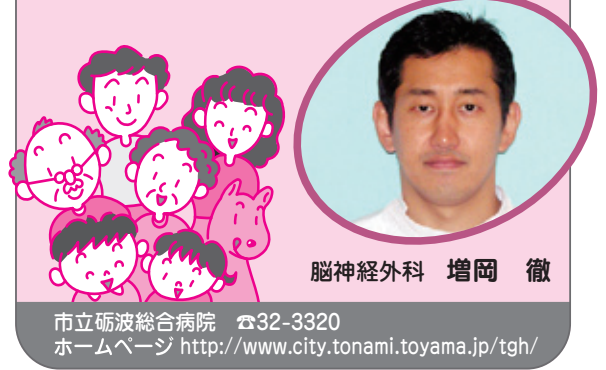


# 砺波総合病院から



脳神経外科 増岡 徹

市立砺波総合病院 ☎32-3320  
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

## 脳梗塞の最新の治療について

脳梗塞とは、脳に栄養を送る血管が何らかの原因で閉塞し、その血管の支配していた脳細胞が壊れることにより、運動麻痺や感覚障害などの様々な症状を来す病気です。

昔は、脳出血と脳梗塞をあわせて脳卒中が、日本人の死亡原因の1番目でした。現在は、様々な薬や外科治療の進歩のおかげで、脳卒中は、癌、心臓病に続く3番目の死因となっています。しかしながら、亡くなる患者数が相対的に減少しただけであり、高齢化や食事の欧米化などに伴って、脳卒中にかかる方々の人数は増加し、半身麻痺や寝た

きりなど脳卒中の後遺症で苦しめられている方々も増えています。

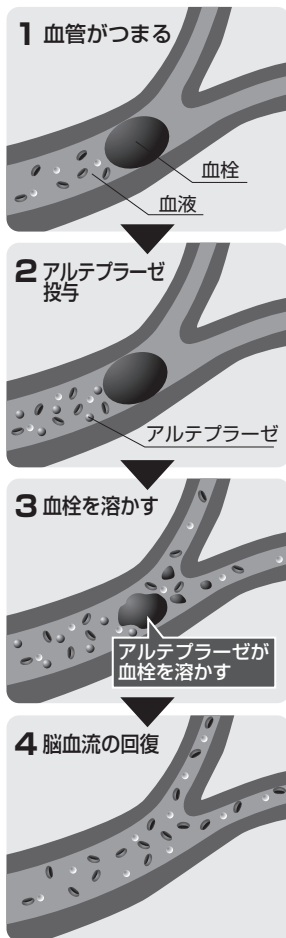
脳卒中のうち脳梗塞を予防するには、血管の中で血栓（血管内で生じる血のかたまり）ができていくのを防ぐ薬（血をサラサラにする抗血小板薬や抗凝固薬）を服用していただくことが重要です。

それでも不幸にして脳梗塞を発症してしまった場合は、一刻も早く治療を開始することが大切です。

脳細胞に栄養を送る血管が閉塞し、脳細胞が完全に壊れるまでには、数時間かかります。脳細胞が壊れる前、すなわち、数時間以内に閉塞した脳血管を再開通させることができれば、脳梗塞にならなくて済むというわけです。

脳血栓を溶解する薬は、現在までにいろいろ開発されてきましたが、2005年からt-PA（アルテプラゼ）という新薬が、日本でも認可されました。t-PAは、血栓を溶解する作用が今までの薬よりも強い薬です。

### t-PAにより血栓を溶かすメカニズム



しかしながら、「諸刃の剣」という言葉があるように、血栓を溶解させる作用が強いということは、逆に副作用として、出血を起こす危険性もあるということです。そのため、t-PAの使用に際してのチェック項目（下記のとおり）が多数あり、脳梗塞の患者さんそれぞれに禁忌事項や慎重投与事項がないかを確認して、一定の使用基準を満たした方のみ投与することが許されています。

チェック項目の中でも最も重要なものは、頭部CTの結果、新しい脳梗塞が見られず、発症から3時間以内にt-PAの投与を開始しなければならぬことです。このような時間的制約がありますので、もし、半身麻痺や感覚障害、言語障害を来した場合は、自己判断で様子を見るのではなく、早急に来院してください。発見が遅れてしまうと、病院に到着する前に脳細胞が壊れてしまい、治療効果が期待できません。

また、t-PA治療はこの病院でも行えるわけではなく、経験を積んだ

脳卒中専門医師がいて、SCU（脳卒中集中治療室）などの脳卒中急性期の治療に対応できる特別な病床のある病院においてのみ可能です。

当院は、脳神経外科に5人の医師が常勤しており、CTやMRIの撮影が24時間可能です。t-PA治療の実績は県内で最も多く、t-PA治療による合併症も1例も来しておりません。皆さんも、もし何らかの自覚症状が出た場合は、早急に来院してください。

もちろん脳梗塞は、高血圧、糖尿病、高脂血症、不整脈、喫煙などの様々な危険因子が絡み合った結果、発症する病気です。発症してからでは遅く、普段から脳梗塞にならないよう食事、運動、生活習慣に気をつけていただくことが大変重要です。

### t-PAの使用に際してのチェック項目

- ・発症からの経過時間が3時間を越えていないこと。
- ・出血していないこと。
- ・くも膜下出血の疑いがないこと。
- ・血圧が高くないこと。
- ・血糖値に異常がないこと。
- ・3か月以内に脳梗塞を発症していないこと。
- ・重度の合併症（肝臓やすい臓の病気）がないこと。
- ・発症時にけいれん発作がなかったこと。